

Information8

梅雨も明けいよいよ夏本番!!



毎年夏に注意したい **“熱中症”** は私たちも **キケン** ですが

ペットたちも同じく **命にかかわるキケンな病気** です。

年々暑さが深刻化し、猛暑日が多くなっています。

これから過ごしていく中で、気を付けてほしいことや対策をお話しします。

熱中症リスクのある場所は大きく 4 つあります。

1：散歩 2：おでかけ 3：室内 4：留守番

<1：散歩>

こんな場合はキケン！お外に行くのは控えましょう。

- * 日が昇ってから外に行く * 25℃以上の熱帯夜
- * 日が落ちて地面が熱い時 * 雨上がりのムシっとしている時



ペットたちは私たちと比べ、アスファルトとの距離が近いです。アスファルトからの輻射熱が人よりもダイレクトに伝わってきます。

散歩に行く際は、まず**地面を素手で触り歩ける温度**が確かめましょう。

明け方から6時までに済ますように！こまめに水分補給をしましょう。

ひんやりグッズを持っていき、アスファルトではなく草や土の上を歩くように意識しましょう。

<2：お出かけ>



夏の車内は**高温**になります。出かける前にエアコンをつけ車内が涼しくなってから出かけましょう。キャリーバックの中は風通しが悪いのでうちわなどを使い定期的に風を送り、直射日光が当たらないようサンシェードを活用。

駐車は日陰や地下に停める意識を！こまめな休憩と水分補給は忘れずに！

<3：室内>



エアコンが効いてないお部屋に閉じ込められるのは危険です。在宅中はなるべく同じ空間で過ごしましょう。**エアコンは 24 時間稼働**、カーテンを閉めたりして**室温 26℃前後・湿度は 50%前後**をキープ！

私たちではなく動物たちを基準に室内の環境を整えてあげましょう♪

<4：留守番>



留守中は室温や湿度管理が難しいです。**快適に過ごすためのポイント！**

☆お留守番前の健康チェック

⇒食欲・元気さ・排泄の有無などいつもと違うがないか確認

☆お水は常に飲めるように

⇒いつもいるところに設置！長時間の留守番は水分補給ゼリーを与えると安心

☆カーテンを閉じて冷気を逃がさない

⇒温度上昇を防ぐ

☆見守りカメラや遠隔操作できる機器を導入

⇒温湿度管理には最適！この対策は停電してしまった際にも有効



熱中症に気を付けてほしい犬種

大型犬 短頭種 長毛種 被毛が黒い 興奮しやすい 肥満 持病持ち シニア



熱中症で危険な症状は、ぐったり・痙攣・ガーガーした呼吸・嘔吐・下痢。
水が飲めるのなら飲ませてあげ、全身を濡らし風を当て体温を下げましょう。

足先を水につける・**大きな血管**が通っている**首や四肢の付け根**は

効率よく冷やすことができます。

ただ体温が下がりすぎてしまうのも危険なため、必ず病院にお電話ください。